

うめきたと中之島の役割分担について（案）

うめきたと中之島の連携と役割分担の方向性(案)

【うめきた】

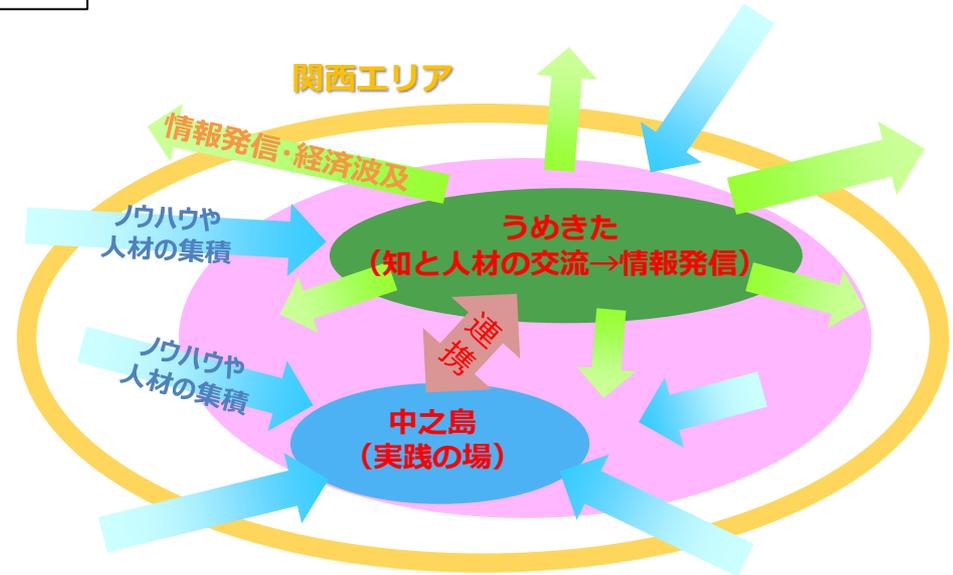
- ・ 海外や他都市からのアクセス・立地の優位性
- ・ 知的人材の交流拠点、みどりの活用・ビッグデータ活用等による新産業創出の可能性
- ・ 隣接する先行開発区域(うめきた1期)に集積されたノウハウ・人材の活用・交流が可能

【共通・連携】

- ・ 相互の地理的近接性と開発時期・開発余地といった面でのポテンシャル
- ・ 国内有数の既存ストック(大学・研究機関等)との連携の可能性
- ・ 健康・医療、MICE機能等での連携の可能性

【中之島】

- ・ なにわ筋線とその地上空間の整備により、うめきたとの強い連携が可能
- ・ 既存の文化・芸術機能に加えて新駅設置、大学機能の誘致、河川・水辺の整備等により、新たな都市軸形成のポテンシャル



うめきたは国内外から知と人材の交流と情報発信が循環される場で、中之島はアカデミアを核とした文化・芸術・学術・技術の実践の場。地理的近接性を活かして、健康・医療やMICEといった分野で連携。

中之島4丁目に関して(案・主に再生医療拠点の観点で)

- うめきたは主に「各拠点の成果が集まり、それを求める人々が交流し、その情報が国内外に発信されるというサイクルが循環する場」
- 中之島は主に「再生医療の一大拠点として、国の機関やアカデミアを核とした、産学連携・産産連携の実践の場」
- この2つのエリアが連携・役割分担しながら、相乗効果を発揮することで、大阪の中心から関西全体へと経済効果が広がることに期待